



一般社団法人
富山県作業療法士会
ニュース

平成30年度 No.3 第129号 平成31年1月26日

発行 一般社団法人
富山県作業療法士会
会長 齋藤 洋平
印刷 株式会社 ユーエツ

富山県作業療法士会ホームページ <http://toyama-ot.sakura.ne.jp>

富山県作業療法士会会員数：638人

富山県の作業療法の発展、会員の皆さまのために微力ながら頑張ります

学校法人青池学園 富山リハビリテーション医療福祉大学校 渡邊 雅行



2018年度から新しく一般社団法人富山県作業療法士会の理事を拝命した渡邊です。2017年に静岡県から富山県へ転職し富山県作業療法士会に入会した2年目の会員です。今までに愛知、山梨、東京、岐阜、福島、大阪、静岡の会員で、20年ほど前に岐阜県作業療法士会で理事の経験があります。

日本作業療法士協会では、過去に学術部作業療法効果検討委員会に所属し、現在は国際部国際委員会に所属しています。

富山県作業療法士会では、普及指導部と調査部、

介護ロボット協議会の担当です。齋藤会長のもと、部長をはじめ部員のご協力をいただきながら、会員皆さまの研鑽、作業療法の普及発展を図り、地域医療、福祉の向上のために微力ながら精一杯、理事の責務を果たしていきたいと存じます。また、富山県作業療法士会2年目で慣れないこともありますが、皆さまの声を聞きながら活動してまいります。

富山県は海も山の自然が美しく、通勤時の車窓からの景色を眺めているといつも新鮮な気持ちを抱くことができます。富山では、何よりもおいしい水、お酒、料理に舌鼓を打っています。堅実で忍耐強く、勉強家と言われる富山県の皆さまと一緒に富山県の作業療法を更に盛り上げていけたらと存じます。どうぞよろしくお願いたします。

チャンスをつかみ取ろう！

あさひ総合病院 大平 正和



理事を授かり、半年が過ぎます。そんな大役にいまだ戸惑いは消えず、県士会の組織や活動もよく解らないのが正直なところでは。

さて、そんな私が担当するのは地域アドバイザー委員会です。この委員会では、地域包括ケアシステムに多くのOTが活躍できるように活動

します。OT協会は「2019年度重点活動項目」の主題として「地域包括ケアシステムに寄与する人材育成体制の確立とその展開」を掲げています。この主題は今年度から継続されるものですが、OTにとってそれほど重み付けが大きい課題であると思っています。また重点課題には「作業療法士の学術の発展への取り組み」も挙げられており、根拠に基づいた

OTの効果が求められています。地域ケア会議や総合事業、認知症支援を通して自治体や地域住民を対象にOTをアピールできるチャンスが増えました。このチャンスにOTらしさを前面に出して、効果を示すことがOTの発展につながると思います。チャンスを吉とするか凶とするか、今がOTの頑張りどころです。従って、チャンスに応えられるような人材育成と外部機関への働きかけを委員会とともに行っていきたいと思っています。

地域包括ケアシステムは、高齢者に焦点が当たりやすいですが、子どもから高齢者、精神障がいまでOTが対象とする全ての人のためのシステムであり、地域づくりです。働く分野に関わらず多くの県士会員がこの領域で活躍できることを願い、理事を務めたいと思っています。今後も活動へのご理解とご協力の程、宜しくお願いたします。

富山県精神保健福祉大会で表彰していただきました

魚津緑ヶ丘病院 中山 真一

11月5日(明)、平成30年度富山県精神保健福祉大会で表彰していただきました。この表彰は富山県作業療法士会から推薦していただいたものです。選考基準が「15年以上精神保健福祉事業に従事している者」だそうで今年は私が恩恵に与かった次第です。

表彰式はサンフォルテで開催。当日は隣の富山市総合体育館でねんりんピックのPOS合同での認知症予防イベントが行われていました。私も認知症作業療法委員として午前中参加させていただき、続いて午後からの表彰式に出席。富山県精神保健福祉協会会長から賞状と記念品(錫製の箸置きセット)をいただきました。こういった表彰の経験はほとんどないので緊張の連続でしたが、前の方の動きを参考になんとか終了。貴重な経験をさせていただきました。

作業療法士になって20年経ちますが、この20年でも精神科医療は随分変わってきました。私が学生時代、「患者さんに病気のことを伝えると混乱するから禁忌」と教わっていたのが、現在は積極的に伝えていく姿勢に変化しました。精神科に急性期病棟が新設されたかと思えば、国が長期入院

患者の大幅削減をうたいだしグループホームを活用した退院支援事業が活性化。地域で365日24時間のサービスを実施するACTが目されました。最近はそれもひと段落ついた印象ですが、今度は入院から地域支援にシフトすることが出来なかった精神科病院が全国的に破綻してきている、という話も聞きます。

精神科医療も多様化してきています。油断していると「自分だけ取り残されていた・・・」という事態に陥りかねないと思いますし、自分の職場だけにいると既に陥っていることにすら気付かないかもしれません。

そうならないよう、これからも出来るだけ県士会活動に従事させていただきたいと思っています。この度は精神保健福祉大会表彰に推薦していただき誠にありがとうございました。



とやまねんりんピック

黒部市民病院 朝野 真奈花

11月3日～5日の3日間、富山ねんりんピックが開催されました。今回で31回目となる今大会は昭和63年に第1回大会が開催されて以来、兵庫県を皮切りに毎年全国を回り開催されています。60歳以上の方々を中心とし、あらゆる世代の人たちが楽しみ、交流を深めることが出来る健康と福祉の総合的な祭典とされています。この3日間に渡り、富山県各地では、様々なスポーツやダンスから囲碁や俳句等の文化系までにおいて、熱い対戦が繰り広げられていました。

一方、富山市総合体育館周辺においては、きとくと富山ねんりんフェスタが開催されていました。ステージイベントからグルメ・物産コーナーまで用意されており、子供から大人までが、夫婦で、友達同士で、家族で、もちろん1人でも、楽しむ

ことができ、盛り上がりを見せていました。

今回、このねんりんフェスタで設けられた健康フェア・相談コーナーにて、富山作業療法士会普及指導部員は啓発活動を行いました。理学療法士・言語聴覚士会の皆様と合同のリハビリブース内にて、掲示物～体験・参加型の計測や体操等を提供しました。ブースの中央部では理学・作業・言語聴覚士がそれぞれ体・脳・口の体操を指導し、皆で声を出し全身を動かすことで参加者もスタッフも盛り上がりました。

作業療法士からはコグニサイズを紹介しました。手足の運動を行いながら、数字を数える、または野菜の名前を列挙する等、2重課題のこのエクササイズは以外と難しく、参加した方々はてんでこ舞いのように見えました。それでも、一生懸命取

り組む姿勢、間違えて思わず笑顔がこぼれてしまう瞬間などを見て、全身がほぐれるだけではなく、参加しているだけでも十分得られるものがある時間になっていたと思います。

その他、作業療法コーナーでは自助具展示、認知機能検査、脳トレ体験も行いました。自助具の存在を知る、実際に目にして使ってみるというだけで、何かのヒントになり日常生活で自分や家族が困っていたこと解決するかもしれない、そして今後の生活が豊かになるかもしれない、そんなきっかけになったかもしれません。

また、認知機能検査では山口晴保先生考案の山口漢字符号テスト(YKSST)を実施しました。色の漢字と各種記号がペアになっており、その規則にしたがって瞬時に組み合わせを判断していくこのテストはゲーム感覚で取り組むことが出来る上、たった2分間しかかからないため、多くの人に体験してもらうことが出来ました。結果は年齢別の平均値と比較して参考にしてもらいましたが、心配になり落ち込む方や、自信がついて満足される方様々でした。平均を大きく上回った方は、脳トレ倶楽部で日々トレーニングを積んでいる様であり、やはり脳トレ効果はすごいなと実感しました。脳トレ体験コーナーではこの検査の他にも多数簡易検査を用意し取り組めるスペースを作りました。脳トレ体験に引き続き興味を持って見てもらうこ

とが出来ました。これを機に日常生活にプラスしてもらえると甲斐があります。

私は今回普及指導部員としてねんりんピックに参加し、社会に向けた作業療法を発信するいい機会となりました。普段は病院で、疾患を持った方に対する作業療法を行っていますが、疾患を持つ前の方に対する作業療法にも目を向けることが出来ました。今後も作業療法士として皆様が健康に生き生きと生活する手助けが出来るのであれば光栄だと思います。心身ともに健康であることが一番だと人生の目標を再確認したところで、自身の健康面に対しても、もう少し気を使っていきたいものです・・・。

最後に、年輪は幹の成長の緩急の差によって出来るそうです。人生は山あり谷ありと言われますが、今回会場で見かけた方々の顔や手に刻まれた年輪はどれも美しくまさに金メダル級でした。



第52回日本作業療法学会に参加して

富山協立病院 高木 初代

残暑厳しい9月の7日から9日に、名古屋で開催された第52回日本作業療法学会に参加しました。名古屋は学生時代を過ごした懐かしい土地です。高岡から高速バスに乗りおよそ3時間半、到着すると学生時代にはなかったツインタワーが迎えてくれました。

今回は広島大学の宮口英樹学会長のもと、「根拠に基づいた作業療法の展開」をテーマに開催されました。自動車運転のリハビリについて、第一人者である慶應義塾大学の三村将先生のご講演もありました。三村先生は冒頭に、日本の運転リハビリの現状はまだ遅れていることを訴えられました。様々な根拠をもとに、自動車運転の可否について個別に対応していくこと、また、こまめなフォローアップが必要なことを教えてください

ました。そして「自動車運転の主役は当事者と作業療法士である」との、熱いメッセージをいただきました。今、作業療法業界全体として直面している課題が自動車運転リハビリテーションであり、県士会でも「運転と作業療法委員会」が発足した今、この流れに乗り遅れてはならないと思いました。

初日のイブニングセミナーでは、日本臨床作業療法学会による「作業療法のエビデンスを構築する3つの戦略」は600人以上が参加し、大盛況でした。日々の成果を事例研究としてまとめること、そこから観察研究や介入研究に発展する、その先にエビデンスがつけられていくこと。そして、エビデンスとは絶対的なものではなく、新たなエビデンスが生み出され、進歩していくことを学びました。また、モーニングセミナーでは、地域リハ

ピリテーション活動支援事業で関わった3か月の訪問リハビリの事例から「具体的な作業に焦点を当てる」ことの大切さが強調されました。「バスに乗る」といっても「どこのバス停から、何のために乗るのか」、具体的に明らかにして介入する、それにより終了後も対象者がその作業を継続するようになる、と教えて頂きました。

最後になりますが、ポスター発表にて「人間作業モデルによる再リズニングが友人役割の再獲得をもたらした高齢女性」と題し、中断していた携帯電話でのメールを再開した事例を報告しました。ここ数年、職場の若手スタッフに刺激され、一緒に「作業に基づいた実践」を学んでいます。



作業療法の源流を知ることで世界が広がりました。一人一人にとっての作業の意味や価値を考える中で、日々の臨床が変わり、今回、久しぶりの発表となりました。事例をまとめる上では、いろいろと苦労しましたが、自身の作業療法を見直すよい機会となりました。

今回も全国各地から多くの作業療法士が参加し、会場に熱気があふれていました。特に20代・30代の若者の参加が目立ちました。最新の知見に触れ、現在の業界の動向を肌で感じ、そこから自分が出来ることを見出す貴重な機会が学会です。来年は福岡開催で遠方ですが、多くの方が参加されたらよいと思います。



第18回東海北陸作業療法学会へ参加して

富山医療生活協同組合 水橋診療所 作業療法士 位寄 浩平

2018年11月17日(土)、18日(日)に第18回東海北陸作業療法学会がAOSSA(福井県)にて開催されました。概要として、学会テーマは「主体的な生活に向けての作業療法実践」であり、演題は口述・ポスターを合わせて105演題、学会テーマに即した講演やシンポジウム、セミナー等が企画されていました。

今回、私が学会に参加した目的は、事例発表を行い諸先生方から意見をいただく事と、発表や講演、シンポジウム等を通して作業療法士として必要な知識を得る事でした。

事例発表では、同時刻にシンポジウムが行われていた事も会場内は人が少なめでしたが、座長の長江和彦先生から貴重な質問とアドバイスをいただく事ができました。事例報告をするにあたっていつも感じる事は、事例を振り返る事で多くの学びがあるという事です。実践の中で何を考

何をしたのか、何が良かったのか、もっとこうした方が良かったのではないかなど、振り返りの中で多くの事に気づかされました。例えば良い実践をしても、振り返り言語化する作業がなければ、臨床知として身に付かず、次に活かさないのではないかと思います。どのような発表の場でもよいので、事例を振り返りまとめる機会を作っていく事が重要であると思いました。

特別講演は、「日本の作業療法を再生しましょう～心と身体をみる認知作業療法の視点から～」というテーマで、首都大学東京大学院の大嶋伸雄先生がご講演されました。日本の作業療法における問題点を挙げ、作業療法士は何なのか？理学療法士との違いは？等といったアイデンティティクライシスに陥っている作業療法士に道しるべを示すような内容でした。シンポジウムでは、「主体的な生活に向けての作業療法実践」というテーマで

2つの実践報告と、仙台青葉学院短期大学の齋藤佑樹先生のご講演がありました。発表時間の兼ね合いで、講演途中からの参加となりましたが、面接評価や目標設定、作業の捉え方等、作業療法をする上でとても大切な視点を学ぶ事が出来ました。

今回、東海北陸作業療法学会に参加する中で、作業療法の本質というものを改めて考えさせられました。作業療法は、その人らしさを支援すると

いう事で、とても奥が深く難しく思いますが、とてもやりがいのある楽しい仕事であると思っています。クライアントの生活がより良いものになるよう、今後も学習や環境作り等、自分のできる事から取り組んでいこうと思っていました。最後に、今回の発表にあたり快く承諾して頂いた事例、及びご指導して頂いた諸先生方に心より感謝いたします。

東海北陸リーダー養成研修会in岐阜に参加して

富山西総合病院 桑山 愛子

平成30年12月1日(土)～2日(日)に岐阜県大垣市で東海北陸リーダー養成研修会が開催され、東海北陸7県士会からの代表者計33名が参加しました。次世代の作業療法を担うリーダー養成のための研修です。

1日目は、人材育成・教育研修の支援をしている㈱インソースの服部正信氏を講師として迎え、「次世代リーダー研修」と題し、リーダーとしての在り方についてお話して頂きました。リーダーとは特別な存在ではなく「役割」であり、理想のリーダー像に近づこうと思わず、自分の得意なリーダーシップの発揮の仕方を模索することが大事と言われていました。また、指示・命令によって動かすリーダーシップよりも、メンバーの背中を押したりサポートするサーバント型(支援型)リーダーシップがメンバーの主体性を引き出し、様々な環境変化や多様化するニーズに対応していけるとされていました。

2日目は同企業の講師である中島史絵氏が「ワンペーパー資料作成研修」として、情報を一目で分かりやすく伝えるための構成力や文章の要約力についてお話して頂きました。資料は「読みもの」ではなく「見せもの」であり、「文章の訴える力=訴求力」が強いことが分かりやすい資料のポイントと言われていました。

2日間の研修では参加者同士のディスカッションに多くの時間が設けられました。各地から経験豊富な方々が集まっていたため、柔軟な発想力や広い視野によって活発な意見交換となりました。夜には懇親会があり、他県士会の方々と作業療法について熱く語り合い、時間が足りないくらいの盛り上がりでした。名刺交換だけに終わらず、懇親会を通して連絡を取り合える関係性を築くこともできました。これこそがこの研修の醍醐味なのだと思います。ここでの出会い、繋がった縁は大切にしていきたいと思えます。

今後の作業療法を担う次世代を育成しようとする協会・県士会の想いが伝わり、受身的な立場から自ら発信する立場として主体的な行動が求められていると痛感しました。

昔は士会活動もどこか他人事のように思っていたのですが、協会・県士会のおかげで作業療法士として自己研鑽できています。そのことを忘れず、一協会員・一県士会員としての自覚と責任を持って、少しでも貢献できるように取り組んでいきたいと思えました。

敷居の高い研修と内心とても緊張していたのですが、実際は楽しく、刺激的で有意義な時間でした。貴重な研修会に参加させて頂き、心より感謝申し上げます。



身体障害部会研修会に参加して

富山大学附属病院 稲垣 実来

平成30年11月11日に富山県リハビリテーション病院・こども支援センターで行われた身体障害部会の研修会に参加させていただきました。大阪府立大学の竹林崇先生による「CI療法実践！行動変容を導く上肢機能アプローチ」をテーマとした講義でした。

講義を受ける前までは、CI療法とは、麻痺側に強制的な集中練習を行う機能的アプローチのことであると思っておりましたが、講義を受けて、CI療法は患者さんに比較的触らない課題指向型アプローチで、CI療法の本質は、麻痺手の機能を効率的に生活へ一般化させることであるということがわかりました。アプローチには、機能指向型アプローチ、CI療法のような課題指向型アプローチがあり、どのアプローチを行うかは、患者さんの病期や重症度、目的ごとに使い分けて行うことが大切だと感じました。課題指向型アプローチには、Shaping（作業の手段的利用、主に麻痺手の機能を向上させる練習）とTask practice（作業の目的利用、実場面の動作を想定して、直接的実地的練習）の2種類があり、それぞれ効能が違うため、効率よく行うためにShapingを行い機能を向上させて、Task practiceを行い麻痺手の生活における使用頻度を促進する方法が良いと感じました。

またその後、ShapingやTask practiceを通して、「できそう」と思った活動の使用場面や使用方法を決定していくため、Transfer package（アプローチによって改善した機能を生活転移するための役割の設定と使うための問題解決技法の指導）を行うことが大切であることがわかりました。今までCI療法について詳しく知りませんでしたが、今回の研修を通してCI療法について理解を深めることができました。

他にも、脳卒中における装具療法や電気刺激療法、ロボット療法、運動失調や感覚障害に対してのアプローチについて学びました。今まで知らなかったことを学ぶことができ、とても貴重な機会となりました。今後リハビリテーションを行う上で参考にしたいと思います。



障害老人部会の研修会に参加して

チューリップ長江病院 武藤 真凜

今回、「自動車運転における現状と課題～高次脳機能障害と高齢者と中心に～」をテーマとした障害老人部会の研修会に参加させていただきました。講師は岡山リハビリテーション病院の酒井英顕先生です。

まず、道路交通法の変遷を学びました。以前は、対象者・家族からの自己申告・適性相談だけでした。現在は運転免許センター適正相談係からの指示があり臨時適性検査を実施します。75歳以上の高齢者に対して認知機能検査の導入、高齢者講習制度の変更、臨時適性検査制度の見直しが行われました。

続いて、自動車運転における課題として①道路交通法の変遷により医療機関の役割は増加②基準が具体的でない疾病や障害も多い③病識の乏しい疾病・障害に関して自己申告されない可能性がある④高齢者個々人の能力に合わせた制度が整備されているのかは不明の4点をあげられました。

OTとしてできる支援は、主治医指示の下、対象者の心身機能と認知機能、運転する目的や環境、家族の理解や協力等の状況を評価し、フィードバックをすることです。

今回の研修を通して、把握しておくべき道路交

通法や、OTの役割について学ぶことが出来ました。岡山リハビリテーション病院では、院内独自の評価用紙があったり、周辺の教習所の職員と連携が密に行われていたり、自動車運転支援の体制が整備されていると感じました。

私は療養病棟で働いており、自動車運転支援という分野に関わった事はありませんでした。酒井先生の言われた「病気や運転能力の低下について対象者や家族に理解してもらうことが、重要で難しい」というお話を聞いて、普段の臨床場面でもADL能力や認知面低下について患者様やご家族様に分かりやすく伝える難しさを感じています。今後は、自分自身の知識を増やし、様々な面から患

者様の支援を行えるように成長していきたいと思っています。



富山県作業療法士協会 H30年度 懇親会に参加して

厚生連高岡病院 塚田 奈菜

今回、新入会員として平成30年9月15日に開催された懇親会へ参加させていただきました。同期の仲間たちに会えるのはもちろん、実習でお世話になった先生方や様々な分野で活躍している先生方と、作業療法士になってから初めて一緒にお酒を飲める機会ということで、緊張しつつもとても楽しみにしていました。

当日は雨が降り肌寒い日でしたが、今年は例年よりも参加率が良かったとのこと、お店の中は少し暑くて狭く感じるほどでした。そのように近い距離だったということもあり、最初は緊張して上手く話すことができませんでした。しかし、先生方のほうからお酒を勧めてください、緊張で固まっていた私たち新人の話を上手く聞き出してくださったおかげで、仕事から趣味等の話まで幅広く話しながら和やかに交流することができました。相手の話を引き出すコミュニケーション技術は作業療法士にとって重要であると思うので、これから多くの方と関わり、その技術を習得していきたいと感じました。

お話しをしてくださった中で、今後さらに県士会や作業療法を発展させるためには、若い力が必要だという言葉が印象に残りました。今の自分は

日々の業務をこなすことに必死な毎日で、なかなか知識が身に付かず、この患者さんは自分が担当じゃなければもっと良くなるのでは…などと思ってしまうこともあります。そのような時に頼りになるのはやはり先輩方であり、先輩方の経験から学びつつ、自分たちの視点から物事を捉えて行動にうつしていかなければいけないと改めて思いました。

懇親会は普段関わることの少ない分野や年代の先生方と交流できる良い機会であり、作業療法への理解をより深めることができました。今後は積極的に様々なことに挑戦し、自分と作業療法の可能性を広げていきたいと思っています。



第22回 滑川ほたるいかマラソン給水ボランティアに参加して

富山西総合病院 松浦 朱里

10月14日(日)に第22回ほたるいかマラソンが開催され、福利厚生部事業である給水ボランティアに参加してきました。

今年は県士会員20名、お子さん1名の計21名で参加し、ほたるいかミュージアム前で給水活動に従事してきました。

ほたるいかミュージアム前は2400人以上の方が参加されたハーフマラソンの中間地点であり、とても多くのランナーが密集するポイントでした。ランナーの波が来たときの、給水が追い付かないほどの忙しさには衝撃を受けました。

そしてこの給水ボランティアを振り返り、ランナーの皆さんの優しさや温かさが印象深く残っています。この日は晴天でしたが、徐々に日差しが強くなり、照りつけるような暑さに自分自身も立っているだけでもつらい状況でした。そんな中でもランナーの皆さんは力強く走っておられ、そんな姿に逆に励まされました。また、給水地点はゴールまで残り2kgという場所でもあり給水地点に向かって来られるランナーの皆さんも疲労してきておられる様子が窺えました。しかし、ランナーの皆さんはこちらに笑顔を向け「ありがとう」と

いう言葉かけてくださいました。私はそんなランナーの皆さんの一生懸命な姿、優しさを感じることができたからこそ最後まで楽しく活動することが出来ました。

今回、初めてほたるいかマラソンの給水ボランティアに参加しましたが、その中から得られるものがあり、とても有意義な時間を過ごすことが出来たと感じています。来年も参加したいと思うと共に、こんな素敵な経験をより多くの県士会員の方々と共有していきたいと思いました。



「IT活用支援研修会」のお知らせ

富山県作業療法士会では、日本作業療法士協会と共同でIT活用支援研修会を6月29日(土)・30日(日)、富山県総合福祉会館(サンシップとやま)で開催します。

この研修会では作業療法士がIT機器を活用した臨床活動を支援するため、PCを用いた支援方法の紹介や新しいコミュニケーション機器の体験などもあります。また、1日目に参加された方には、無料でIT機器をレンタルできるようになります。

情報関連技術(IT)は、作業療法士の重要な手段であり活躍が期待されている分野でもあります。県士会員の皆様には奮って参加して下さるようお願いいたします。詳細は追ってお知らせします。

2019年1月 福祉用具支援事業委員会

委員長 太田 悠介

■ 会員異動等

種類	氏名	旧所属	新(現)所属	備考
退会	岡元 香奈	魚津緑ヶ丘病院		
異動	江渕 敏樹	介護老人保健施設 きぼう	老人保健施設アルカディア氷見	
異動	新森 麻希	老人保健施設 アルカディア氷見	J A高岡デイサービス もえぎの里	
異動	関原 明奈	駅南あずさ病院	あずさ会 川田病院	

県士会員の皆様いつもお世話になっております。今回、当院の施設紹介の機会を頂きありがとうございます。当院は、小矢部市の街中にある100床程の単科の精神病院です。所属の作業療法士は現在4名勤務しております。内訳は精神療養病棟専従者が1名、精神科デイケア担当が1名、精神科作業療法担当が2名となっています。外来の方へのサービスは精神科デイケア、入院の方への病棟外活動は精神科作業療法（精神科一般病棟は精神科作業療法で病棟内で関わるケースもあります）、入院の方の病棟内での活動は精神療養病棟専従者が担当するように役割分担されています。

今回は、主に私が担当している精神科作業療法を中心に紹介させていただきます。前任者が平成15年12月に開設し今年で当院の精神科作業療法は15周年を迎えています。私自身は、開設から4年後に入職していますので、この10年はいろいろな失敗を重ねて来たなと思います。さて、当院の精神科作業療法の話に戻りますが現在は、2つの病棟から一日あたり30人前後の方が参加されています。対象者の幅は広く下は10代～上は80代で疾患は統合失調症が多いですが感情障害、発達障害、知的障害、認知症等多岐にわたります。

現在当院の課題として「行動制限をどのように最小限にしていくか」「身体合併症があるケースなどで移動のADLが低下してるケースをどのように自立度の高い生活に近づけていく

か」「グループホームや自宅で生活できていたが加齢や他の疾患の発症等により再入院したケースをいかにして社会生活に戻ってもらうか」など多岐にわたっています。治療課題が多岐にわたっているためパラレルな場でそれぞれの方が別の事をしてもいい場をメインのプログラムとして活用しています。また、入院間もない方でOT室に活動の場をすぐに持ってこれない方に対して頻度は少ないですが少ないスタッフをやりくりし活動の場をOT室に移すことや安全に病棟外へ出られることができることを目標に病棟で個別あるいは2名程度のプログラムも実施しています。精神科は今より個別を行うなど手をかけ治療構造を改善していけばまだまだ多くのことがOTとしてできると思うのでこれからもできることを見つけて精神科の作業療法業務に取り組んでいきたいと思っております。

この度は貴重な機会を頂きましてありがとうございました。



地区連絡網についてのお知らせ

前回ニュースに合わせ皆様へ送付した地区連絡網に関し、主に富山地区で連絡先に誤った記載がありました。先の災害訓練の際に皆様へ大変ご迷惑をお掛けしたことをお詫びいたします。

各地区の担当地域アドバイザー委員会を中心に確認作業を行い、正確な把握に努めてまいります。今後も所属や連絡先の変更がありましたら、担当の地域アドバイザー委員会へご一報ください。

地域アドバイザー委員会 委員長 赤尾智子



富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

丸池 駿介

県士会の皆様、こんにちは。富山県リハビリテーション病院・こども支援センターの丸池駿介と申します。このリレーコラムのボタンを受けたので、自己紹介と今までの経験、その中で学んだ事を書かせて頂きます。

私は作業療法士になり現在8年目です。平成30年4月より現職場に所属しております。それ以前の7年間を脳神経外科病院でOT部門の立ち上げから働いておりました。立ち上げという環境で、OTを行うための道具や設備が殆どなく、他職種のOTの認識も低い状況でした。日々の業務で治療や連携を上手く行えず、自らの経験不足や至らなさに悩むことが多くありました。しかしその中で「OTの自分だから出来る事は何だろう」と考え、多くの時間を作業療法について調べ、向き合えたと感じます。また出来る範囲で設備や道具を整えていこうと考え、必要な道具やアクテ

ィビティの代替出来そうな材料を量販店で探すことや製作する事を行いました。その自分の可能な範囲での行動が他職種のOTの認識にも繋がり、積極性の大切さを学べたと感じます。他にも「他職種の連携をこっちから良い形式で提案できないかな」と考えて行動する事で、社会人としての他職種や他者と連携する時の大切さやコツなどを学ぶことが出来たと実感しています。

現職場では回復期病棟で務めております。患者様の生活を自宅や地域へスムーズに繋げられるように心がけて業務を取り組んでいます。その際に他職種との連携時、治療プログラムの選択時等の場面で経験を活かす事が出来ていると感じます。新しい環境、職務の中で新たな事を学べる機会が多く、日々嬉しく思っています。今後もOTとしての業務を通して、多くの事を学んでいきたいと思ひます。今後、県士会の皆様にご教示頂くこともありますが、宜しくお願いします。

さて、このリレーコラムのボタンを水橋診療所 通所リハビリのびのびの位寄浩平さんに渡したいと思ひます。



富山西リハビリテーション病院

大谷 奈央

県士会会員の皆様こんにちは。富山西リハビリテーション病院の大谷奈央です。

作業療法士となり今年で2年目となります。前回、ヴィスト株式会社の方からボタンを受け今回のコラムを担当させていただくことになりました。

私の職場は八尾総合病院と山田温泉病院が合併し、昨年11月に開院しました。早くも開院から1年が経過し1年の速さに戸惑いを感じています。

当院は自動車シミュレーターや天井走行レール、ホンダ歩行アシストなどを導入しており、復職や運転に力を入れています。

最近若い年代でも脳血管障害になるリスクがあり、対象者の年齢平均も下がりがつあります。そのため復職や自動車運転の再開希望が良く聞かれます。当院では机上での検査後自動車シミュレーターを使用し適性検査やハンドル操

作、アクセル・ブレーキ操作など運転に必要な検査を一通り体験することが出来ます。シミュレーター練習に慣れた頃に自動車学校での実車練習に移行し、実場面で安全に走行可能か確認を行います。シミュレーターでの練習を繰り返すことで自信が付き、実車でも心にゆとりをもって運転ができると思われまひます。

富山西リハビリテーション病院はリハビリススタッフ51名、助手4名が在籍しており、回復期病棟、訪問・通所・外来リハビリがあります。私は回復期病棟に所属しています。昨年は急性期に所属しており、2、3ヵ月と長期に渡り患者様と関わる機会が少なかつたため入院期間中に患者さんの出来なかつたことが出来たという瞬間に立ち会えることにやりがいを感じています。しかし患者様の回復に伴い、次にどの段階付けでリハビリを行うべきか悩み、自分の知識・技術の未熟さを痛感しています。患者様によりよいリハビリが提供できるよう周りに相談することや自分自身の知識・技術が向上するよう日々精進していきたく思ひます。

最後に、リレーコラムのボタンを「こぶしの庭」の谷口早紀さんへ渡したいと思ひます。

「OTの強みを活かした発信

～気づく・伝える・繋がるをもっと！～

学会長 赤尾智子（富山赤十字訪問看護ステーション）

来る平成31年3月17日日とやまサンシップにおいて第18回 富山県作業療法学会を開催します。医療から介護まで、子どもから高齢者まで、予防期から終末期まで、病院・施設から在宅・地域まで、誰もが、どこにいても、どのようであっても、それぞれに様々な生活行為を積み重ねて生きている限り、そこに生活課題がある限り、どのシーンでもOTのニーズはあり、私達はどのような場にあっても常にその支援の一端を必ず担っています。そして、関わりの中では誰もがOTとして当たり前前に「気づき、伝え、繋ぐ」ことを日々繰り返しています。そこを「もっと！」意識しよう、というのが今回のテーマです。

特別講演では、OTならではの情報発信のスペシャリストとして金沢福祉用具情報プラザ館長で作業療法士の安田秀一氏にご講演いただきます。飾らない人柄で、作業療法、作業療法士である自分を熱く語る氏のお話は必聴です。

技術講座では、OTに必須ともいえるMTDLPの実践について富山医療福祉専門学校の藤井暁子氏に、生活行為の工夫に役立つ福祉用具相談支援について富山県介護実習・普及センターの澤木佳子氏に、分かり易く伝えていただきます。一般演題にはそれぞれの現場での実践や課題など多くの興味深い発表が集まっています。その他、地域リハビリテーション活動に参考になる資料の展示も予定しています。

また今年は例年以上に他職種を含め多くの方に参加して頂けるよう、「OTからのOTらしい発信」を念頭に運営委員一同準備をすすめています。同封のチラシを他職種や一般の方にも是非手渡して下さい。私達OTにとっては自分たちの発信・受信を磨く場に、他の皆さんにとってはOTの関わりや考え方の一端を知ってもらいたい機会になれば嬉しいです。

皆さんの参加を心よりお待ちしております。尚、参加の際はぜひ事前登録にご協力お願いします。

平成30年度 第5回理事会

場 所：谷野呉山病院

日 時：平成30年10月15日(月) 19:00～

参加者：齋藤、松岡、島津、丸本、橋爪、吉村、
吉波、松本、渡邊、藤井、能登、小倉

欠 席：作田、桐山、森

＜報告事項＞

1. 各種事業について

- 1-1. いきいきとやま・健康と長寿の祭典、ねんりんピック（11月3日～5日）
 - ・いきいき式典：5名程度の参加。当日参加者の中から選抜。
 - ・ねんりんピック：老人部会、認知症作業療法委員会にて対応。認知症テストや予防体操などを予定。県より必要経費一部支給。詳細を再確認（渡邊理事）

1-2. 東海北陸学会

福井学会

- ・3名座長依頼。丁子氏（富山リハビリテーション医療福祉大学校）、長江氏（高志）、吉野氏（富山西 リハビリテーション病院）に依頼。
- ・齋藤開会式出席。

2020富山県学会

学会長、小倉氏（黒部市民病院）を中心に構想委員会。現在6名、今後2～3名増員。会議費等の予算は31年度から計上。

2. 協会事業について

- 2-1. 47都道府県委員会（10月7日）齋藤会長参加。
 - ・モデル事業は今年度で終了。
 - ・精神科WG（仮称）の協力依頼あれば検討
 - ・協会からの連絡は、これまでは「事務局長（必須）+推進委員や県士会長」。今後は事



“歩く”

歩きやすさを追求した 靴・インソール

快適に!

“聴く”

聞こえの世界が広がる 補聴器



(株)富山県義肢製作所 / 富山県補聴器センター

〒930-0042 富山市泉町1・2・16 TEL 076-425-4279 FAX 076-425-4587

E-mail t-gishi@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.tpo-morita.com>



介護保険対応! ベッド・車椅子・レンタル!

車椅子

→ 480円より

ベッド

→ 700円より

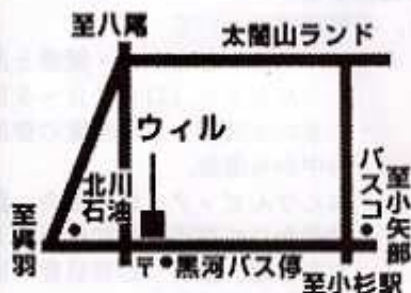
リースナブル



株式会社 ウィル

TEL (0766) 56-7099

FAX 56-3395



務局長より県士会長へ転送。

3. 各部会、委員会などより

3-1. 福利厚生部

・10月14日 ほたるいかマラソンボランティア
(20名参加)

・9月15日 懇親会(40名参加)

3-2. 広報部

・パンフレット作製、県士会ロゴについて。11月の部会にて、パンフレット修正、ロゴの規定など作成。

・HPデザイン変更

3-3. 地域リハビリテーション部会

・きつときと新聞。ALS患者の取材、今後の対応について報告

3-3. 各事業および予算の遂行状況、変更など

・地域アドバイザー委員会研修会を全体研修会で計画していたが、地区単位での開催に変更。予算を超えない範囲で会議費、交通費、資料代等を計上。

・災害訓練について自宅会員に案内しているが返答が少なく、再度案内を発送し案内。

3-4. 北陸3県MTDLP研修会の参加募集中

4. その他

4-1. リハビリテーション専門職協議会について

・県介護総合確保基金に係る平成31年度事業に、「介護予防の推進に資するOT・PT・ST指導者育成事業」として年2回で申請

4-2. 精神疾患家族会からの依頼

・会議継続(次回は10月中)。齋藤会長出席。

・士会員全体への声掛けは行わず、理事に配布しその周辺にて記載し、島津事務局長に提出

4. その他

4-1. 推進委員会等への派遣後の報告について

・配布された資料+報告書(要点、県士会への提案や課題、懇親会の参加有無)を提出

4-2. 理事会などへの提案等について

・部会や委員会については担当理事より理事会提案。もしくは、部長、委員長の出席

4-3. コンベンション研修会(県主催)

・2020東海北陸学会あるため、案内があれば参加を検討

4-4. 北海道士会学術誌協賛について

・富山県士会での協賛は見送り

4-5. 2019年度事業計画および全体会

・事業計画は、毎年11月20日に固定

・全体会は12月12日(水)19時より谷野呉山病院

平成30年度 第6回理事会

場 所：谷野呉山病院

日 時：平成30年11月26日(月) 19:00～

参加者：齋藤、松岡、島津、丸本、森、吉波、松本、森、大平、渡邊、藤井、能登、吉村、谷口

欠 席：橋爪、桐山、小倉、作田

《報告事項》

1. 各種事業について

1-1. いきいきとやま・健康と長寿の祭典、おんりんピック(11月3日～5日(6日))

・富山市総合体育館リハビリ専門職協議会ブースには、500名以上の集客あり

1-2. 東海北陸作業療法学会(11月17日～18日)

・東海北陸県士会長会議にて、ブロック学会、臨床実習指導者研修会等について検討

・東海北陸学会は、2019年度は静岡県、2020年度は富山県にて開催予定。

1-3. 精神保健福祉実現会議

・10月24日、11月21日会議に齋藤会長出席

・12月9日講演会に齋藤会長、島津事務局長出席

・今後、事務局への協力打診、寄付金(金額未定)の依頼

1-4. 「地域におけるリハビリテーション活用促進を目指した調査研修事業」アンケート

・地域アドバイザー委員会等に確認の上、齋藤会長より返答

1-5. 地域リハビリテーションに関する会議

・随時、医療圏単位で開催される予定であり地区毎に周知

2. 協会事業について

《検討事項》

1. 協会事業

1-1. 介護ロボット

・10月2日 第2回富山協議会。南砺市内の定期巡回訪問介護看護サービス事業所を対象に、更衣に関するロボットの開発予定

・今後、同行訪問、職員へのインタビューを予定

1-2. 臨床実習指導者研修

・厚労省からの通知文などについて(渡邊氏より)

・臨床実習指導者研修会(中級・上)参加。10月6、7日渡邊氏参加。11月3、4日京田裕紀氏(池田リハビリテーション病院)を推薦。

・協会の計画(12月以降)を確認し、県の事業計画を検討

1-3. OT協会表彰推薦

・三役で推薦候補者を選定し11月30日までに応募

2. 各部会、委員会などより

・県学会演題エントリー10月中旬現在で2件。演題募集締め切りを11月15日まで延長。

3. 田中昌史(たなかまさし)氏の政治活動支援について(日本作業療法士連盟より)

- 2-1. 認知症作業療法推進委員会
- ・これまで3部構成であったが、今後は2部構成
 - ・12月9日認知症作業療法推進のための研修会
- 2-2. 生涯教育
- ・11月17日18日生涯教育委員会の報告
- 2-3. 運転と作業療法委員会
- ・富山県士会は、「3者協議の場の設定」での結果通知あり、12月中に開催予定
- 2-4. 介護ロボット
- ・定運に対するニーズ、デマンド調査し、第3回富山県協議会（11月30日）にて検討
- 2-5. 2019日本作業療法協会重点項目
- ・精神科作業療法、運転、臨床実習指導者研修、障害者スポーツなどの確認
3. 各部会、委員会などより
- 3-1. 災害リハビリテーション委員会
- ・11月13日災害模擬訓練の返信率は、高岡地区49%、新川地区70%、砺波地区87%、富山地区53%、自宅会員9%、全体平均59%。
 - ・連絡網でのFAXで行う場合の課題と、今後の提案あり、委員会にて検討
 - ・協会シミュレーション訓練（2月8日頃）あるが、次年度からの参加を検討
- 3-2. 北陸3県MTDLP事例検討会
- ・今年で1クール終了のため、県士会単位で行っていくことを提案
 - ・事例登録の推進に向けた研修会などを検討
- 3-3. 身体障害部会
- ・11月11日研修会に、県士会外、学生含む52名の参加
- 3-4. 地域アドバイザー委員会
- ・10月29日砺波地区、11月9日高岡地区、今年度中新川地区にて開催
 - ・11月29日富山市ブロック別認知症研修会Dブロックにて齋藤会長講演
- 3-5. 教育部
- ・11月25日現職者選択研修会（精神分野）4名のみ参加
 - ・精神分野は、今年度、協会の重点課題であり、体制と啓発の強化
- 3-6. 広報部
- ・新しいパンフレットを作成
 - ・ロゴマークの取り扱いについて規定を作成し、今後広報部で管理
- 3-7. 渉外部
- ・公文書等、公開する文書に関して、不十分な文言があり、注意喚起するとともに、正しい文面を周知

＜検討事項＞

1. 協会事業
- 1-1. 生涯教育
- ・2019年度生涯教育手帳及びポイントシールが

廃止

- ・カードとバーコードリーダーによる管理と、主催者による協会システムへの登録へ移行
 - ・12月機器が事務局に郵送され、県学会にて試用し、今後の管理方法について検討
2. 各部会、委員会などより
- 2-1. 事業計画案について
- ・理事会にて不足事項や不明点について抽出し、全体会にて確認、検討

賛助会員名簿 (順不同)

会員名(代表者)	住 所
富山医療福祉専門学校 (学校長 長谷川 成樹)	〒936-0023 滑川市柳原149-9 TEL 076-476-0001
学校法人金城学園 金城大学 医療健康学部 (理事長 加藤 真一)	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 TEL 076-276-4400
医療法人社団いずみ会 温泉リハビリテーション いま泉病院 (理事長 大西 仙奈)	〒939-8075 富山市今泉220 TEL 076-425-1166
株式会社 ウィル (代表取締役 黒田 勉)	〒939-0311 射水市黒河3075 TEL 0766-56-7099
富山リハビリテーション 医療福祉大学校 (校長 青池 浩生)	〒930-0083 富山市総曲輪4丁目4番5号 TEL 076-491-1177
株式会社 富山県義肢製作所 富山県補聴器センター (代表取締役 森田 忠浩)	〒930-0042 富山市泉町1丁目2-16 TEL 076-425-4279

編集後記

新年が始まり、もうすぐ1月も終わろうとしています。今年度の県士会ニュースも今号で終わりになります。

広報部内のことになりますが、来年度から部長が交代となります。私が部長を務めさせていただいた4年間で県士会ニュースはカラーになりました。ニュースの表紙も理事の方々を書いていただくことになったり、リレーコラムが始まったりと、変更点が多い期間であったと思います。多くの方々にニュースの原稿のご協力をいただきました。ニュース以外にも多くの方々に支援いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

来年度からは新体制となりますが、今まで以上に活発な広報部となるよう引き続き支援させていただきたいと思っています。今後とも、県士会広報部をよろしくお願い致します。

市立砺波総合病院 田中 康太